

4. レポートを組み立てる

論証の構造

レポートにおいては、自分の主張を論理的に書く必要があります。論理的とは正しいステップを踏んで考えることです。レポートを書く際には、正しいデータや論拠を用いながら、主張を論理的に結論へと導きます。この結論に至る過程を論証と言います。

自分の主張を論理的に書くために、論証の5つの構成要素、「主張」「データ」「論拠」「反証」「限定語」のそれぞれに気を配りましょう。

主張	自分の主張を明確に述べていますか？
データ	あなたの主張は正しいデータに基づいていますか？
論拠	あなたのデータは、主張を適切にサポートしていますか？
反証	あなたの主張に反する主張や、例外などを挙げていますか？
限定語	あなたの主張は、どの程度の確かさで成り立ちますか？

例 タバコを吸うべきではない

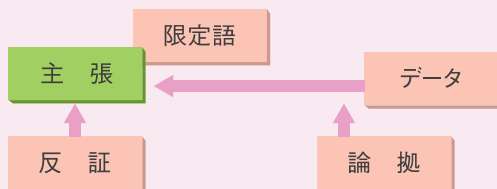
例 疫学的な調査によれば、タバコは喫煙者の9割に疾患等の害をもたらしている

例 健康にとって有害なことは行うべきではない

例 喫煙する自由は健康よりも大切だと主張する人もいる、疾患等の害を被らない喫煙者も1割いる…

例 ほとんどの場合

【論証図式】(トールミン・モデルをもとに作成)



Toulmin, Stephen E. 1958. *The Uses of Argument*. London: Cambridge University Press, 104-105.

例文

「喫煙は是非か」

タバコを吸うべきではない。なぜなら、健康にとって有害なことは行うべきではないからである。疫学的な調査によれば、タバコは喫煙者の9割に疾患等の害をもたらしている。喫煙する自由は健康よりも大切だと主張する人でないかぎり、ほとんどの人の場合、タバコを吸うべきではない。

注意事項

▶ すべての立教生はおしゃれ？

「すべての立教生はおしゃれである」の否定は何でしょうか。「すべての立教生がおしゃれなわけではない」、つまり立教生の中にはおしゃれではない人も、ということです。

それでは、「いく人かの立教生はおしゃれである」の否定は何でしょうか。「おしゃれな立教生はいない」、つまり立教生にはおしゃれな学生がひとりもない、ということです。

否定表現を使う際には、「すべて」なのか「いくつか」なのか使い分けが重要です。

▶ その主張の確かさはどれくらい？(限定語)

「健康を確実に損なう」と「健康を損なうこともありうる」では、その主張が実現される度合いが全く異なります。自分がどの程度の確実性を主張しているのかを明示するようにしましょう。

▶ 有害ならば禁止すべき？(論拠)

「タバコは本人の健康にとって有害である」という事実を根拠として、「いっさいタバコを吸うことはやめるべきである」という主張を直接導くことはできません。ここには、価値に関する隠れた前提「健康に有害なものはやめるべきである」が潜んでいます。この前提を認めない限り、喫煙を否とする主張は導けません。

自分の主張に知らずに含まれている隠れた前提に注意しましょう。

アウトライン

アウトラインとはレポートを書く際の骨組みです。設計図なしに家を建てることができないように、文章を書き出す前にアウトラインを作成する必要があります。どのようなテーマを、どのような構成で書くかについての骨組みを作ることで、論理的に筋のとおったレポートを書き上げることができます。

アウトラインを書くために

自分のテーマを設定したら、レポートの各部分で何を書くかを考え、メモしてみましょう。結論で何を言いたいのかを明確にして本論とのつながりをつけていきます。自分の主張を成り立たせるために各部分でどのような内容を入れる必要があるか、書きながら考えましょう。

(アウトラインの例)

レポート課題：少子高齢化について自由に論じよ

自分が設定したテーマ：少子高齢化による労働力不足をどう克服するか

序論

はじめに

- なぜこのテーマを選んだのか(導入)
- 問題を明確に打ち出す(問題提起)
- 少子高齢化と労働力不足の関係を述べる(問題背景の説明)
- 労働力不足の解決策として、外国人労働者の受け入れを検討する必要がある(結論の明示)

本論

1節 少子高齢化による労働力問題を説明する

- 少子高齢化の現状・予測を述べる
- 少子高齢化によって生じる労働力問題の論点を検討する

2節 どのように労働力不足を解決できるかを論じる

- 労働力不足を克服した海外の事例を述べる
- 労働力不足を克服するための日本での取組を述べる
- 外国人労働者の受け入れの妥当性について検討する

結論

おわりに

- 外国人労働者の受け入れにより労働力問題が克服できることを結論とする

使用する資料の名前や、それぞれの節で書く内容についてもメモをしよう

- 国勢調査、労働力調査等の統計資料を用いる。
- A氏著『産業構造から見た少子高齢化』、B氏著『少子化の未来と雇用問題』を参照する。

- アメリカ、フランス、韓国等の事例を調べる。
- C氏著『日本における労働者問題の現状と課題』『労働時報』所収、D氏著『労働力不足時代の戦略』、E氏著『外国人労働力をどう捉えるか』を参照する。

- 外国人労働者の受け入れのための具体的な方策については今後の課題とする。

注意事項

- ▶ 手で書きながら、序論、本論、結論の骨組みを作るようにしよう
- ▶ 書きながら内容を絞り込んでいくようにしよう
- ▶ 何度でも手を加え、見直しをしよう
- ▶ 本論の各節の内容が、結論とどのような関係にあるのかを友人等に説明できるようにしよう